平成２３年度第７回石狩市浜益区地域協議会議事録

日　時：平成２３年１１月１０日（木）１８：００～１９：３０
場　所：浜益支所庁議室
資　料：会議次第
　　資料１：地域自治区振興事業の成果について（総括）
　　資料２：平成２４年度地域自治区振興事業について
　＝会議次第＝
　１．開　会
　２．あいさつ
　３．報　告
　　１）高等学校生徒遠距離通学費等補助事業の延長を求める要望活動について
　４．協　議
　　１）地域自治区振興事業の成果について（総括）【資料１】
　　２）平成２４年度地域自治区振興事業について【資料２】
　　３）その他
　５．次回開催日程について
　６．その他
　７．閉　会

出席者：１９人、傍聴人：０人

委員			職員	
役　職	氏　名	出欠	所　属	氏　名
会　長	神田　一昭	○	（支所）支所長	渡邉　隆之
副会長	岸本　教範	○	（支所）地域振興課長	佐々木政人
委　員	坂本　厚只	○	（支所）保健福祉担当課長兼ますみ保育園長兼 浜益国民健康保険診療所庶務課長	木村　新吾
委　員	木浪芙美子	○	（支所）地域振興課地域振興担当主査	小島　　工
委　員	渡邉　千秋	○	(支所）地域振興課産業振興担当主査	袴田　　実
委　員	白井かの子	○	（支所）地域振興課産業振興担当主査	竹内　昌彦
委　員	大久保満彦	○	（支所）地域振興課地域振興担当主任	須田　　恒
委　員	二本柳辰男	○		
委　員	池田　昌平			
委　員	三浦　信悦	○		
委　員	芦澤　　肇	○		
委　員	寺山　広司			
委　員	佐々木茂雄	○		
委　員	徳地　克実	○		

１　開　　会
【佐々木課長】
　只今より平成２３年度第７回浜益区地域協議会を開催いたします。

２　あいさつ
【神田会長】
　皆さん今晩はなにかとお忙しい中、協議会に出席いただきまして有難うございます。
　新メンバーになって第２回目となります。皆さんのお手元に配布しております、会議次第、報告１

点と協議事項3点となっております。今、事務局の方から言われましたが、会議時間は1時間半の予定となっております。短時間ではございますが、時間内に実りある成果を出したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【渡邉支所長】

時節柄なにかとお忙しい中、ご参集をいただきましてまことに有難うございます。

農作業や秋サケ漁も一段落をいたしまして、農業においては水稲で、平年を上回る作柄を確保することが出来たと伺っております。漁業にあっては、ナマコ漁が前年並みの水揚げを確保いたしまして、ウニ漁においても前年対比5割増しの水揚げがございましたが、これはムラサキウニがほとんどでございますし、もっとも不漁年であった昨年との対比でありますから、来年度の更なる水揚げを期待しているところであります。また秋サケ漁の方も前年対比１６％増で、太平洋あるいはオホーツク海岸の不漁により、魚価の方は2割高以上というふうに伺っております。これから冬にかけてのハタハタ漁他の水揚げに期待をしているところでございます。

地域自治区設置期間も残すところ4年という事でございますが、今後市民参加がさらに進み、また協働社会の実現がより強く求められている中で、支所や地域協議会に対します区民の期待もますます、大きくなっていくものと考えております。

少子高齢化が急速に進む中でございますけれども、活発な議論の中から将来に繋がる事業の立ち上げを強く願っているところでございます。

区の人口もすでに１，８００人を大きく割っておりまして１０月1日現在1，７０５人というような状況となってございます。こういった人口の減少と高齢化が進む中、地域に暮らす方々が生まれ育った地域で生きがいを持って安心して暮らしていけるよう、これらに繋がる方策等について大変難しい課題ではございますけれども、委員の皆様と共に考え議論してまいりたいというふうに考えております。

高等学校生徒遠距離通学費等補助事業の延長を求める要望活動についての報告と、継続3カ年を経過したしました地域自治区振興事業の成果について、それと来年度の地域自治区振興事業について協議いただくこととなっております。委員の皆様の活発な議論をどうぞよろしくお願いいたします。

3　報　　告

【神田会長】

報告1の高等学校生徒遠距離通学費等補助事業の延長を求める要望活動について、先般、北海道教育委員会に対し要望を行って参りましたので、その概要を説明いたします。

【渡邉支所長】

それでは私の方から簡単にご説明させていただきたいと思います。

１０月２８日午後2時、神田会長、浜益中学校の羽立ＰＴＡ会長、市の方から三国生涯学習部長、私、尾崎浜益生涯学習課長この5名でお邪魔してきました。相手の方は北海道教育庁、新しい高校づくり推進室山田室長、村田改革推進参事、改革推進グループの主幹、担当主査の方々の方に要望書を手渡しまして、それぞれ浜益区の実状を訴えてまいりました。

その中で道教委のコメントといたしましては、これまで浜益高校関連では3年間で２７名が対象で、そのうち１７名が補助を受けているという状況でございますが、現段階での延長については大変難しい状況にある、というような返答であります。この制度の他にも奨学金制度もございますので、そういった制度について活用しやすい仕組み等を今現在検討しているという事で、今回の要望があった事に対しては重く受け止めたいという事で、ですけれども北海道全体、あるいは道の財政状況等もございますので、そういったものを考慮しながら検討させていただきたいという回答をいただいております。今、厳しいのかなというような印象を受けております。

【神田会長】

只今、高等学校生徒遠距離通学費等補助事業の延長を求める要望活動について、事務局より報告がありましたが何かご質問はありませんでしょうか。

この件については、私も一緒に行って来たのですがほとんど見込みなしという印象を受けております。私からも浜益区の現状を訴えてきたのですが、いま全道レベルで高校の再編成、廃校が進んでおり、また道の財政等のこともあり、延長ということは不可能に近いという事です。道教委の担当者か

らは丁寧に説明していただいたのですが、結論はそういう事です。
【芦澤委員】
地域の実状というのは正確に伝えてあるのでしょうか。
【渡邉支所長】
距離的な部分や通学の時間等、いろいろ説明してきたのですけれど、その点は十分把握していますと、最後は検討したいという事でした。
【神田会長】
浜益から通うとなると、時間的にも交通の便からも石狩翔陽高校あたりが限度という事などいろいろとも、道教委の方でも押さえていました。
この制度を始めるときにも道議会でかなり責められたようで、延長となると到底認められないという事もおっしゃっていました。
【渡邉支所長】
今までも市議会、市の教育長名でも要請書を出してきているので、道教委でも浜益区だけではなく、いろいろな方面からもきているというような話はしていましたけれども。
【神田会長】
要望はしてきたのですが、これからどうなるかまだ分かりません。
今後の地域協議会の中で市に対する要望等を、継続的に話し合い、詰めていかなければならないと感じております。
【三浦委員】
道東とか空知管内とか要望は上がっていないのですかね。
【渡邉支所長】
他の地域までは聞かなかったのですが、当然でているかとは思いますけれども。

4　協　　議
【神田会長】
次に、協議1の地域自治区振興事業の成果について（総括）、事務局から事業毎に説明願います。
【小島主査】
お手元に配布の資料1から資料3、こちらに基づき担当毎にご説明させて頂きます。地域自治区振興事業につきましては、これまでも事業終了毎に事業の概要、事業の成果等について、地域協議会において説明させていただいております。
お手元に配布の資料3枚は継続事業として3カ年、今年度を含めて3カ年実施した事業でございます。今回3年間これらの継続事業として行った成果の総括という事で、まとめさせていただきたいと思っております。というのは地域自治区振興補助金要綱の中に、補助事業の継続期間は最長3年間とし、その期間を超えて実施する時には3年毎に過去の成果を総括し、継続する妥当性が認められることという事になってございます。
資料1－1の浜益区民コミュニティ普及推進事業、区民カレンダー製作事業につきましては平成18年より地域自治区振興事業として実施しておりまして、平成18年、19年、20年と3年間実施してその事業の成果を総括して、これは継続する必要が認められるという地域協議会の意見で、さらに平成21年、22年、23年と3カ年実施しております。区民カレンダー製作事業につきましては、皆様もご活用いただいていることと思いまして、内容については十分ご承知のことと思いますので、説明を省略させて頂きたいと思いますけれども、事業の成果としまして配付は世帯枚でありますけれども、活用は全区民に広がっておりまして生活必需品的な位置付けにあると、今年4月の地域協議会でも、特色ある事業でありこれについては継続する必要性がある、というふうなご意見もいただいております。
事務局といたしましては、今年度3カ年継続事業として実施して、更に平成24年度以降も地域自治区振興事業として継続して実施する必要があるとの判断から、継続して実施する妥当性があると認められるというふうに考えておりますので、先ずは区民カレンダー製作事業について委員の皆様のご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
【袴田主査】

資料の１－２をご覧ください。浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク＆マラソン実行委員会主催の林道ウォーク事業です。

年度実施につきましては平成１８年から実施しておりまして、過去3回の実績という事でここに書かれているとおりです。平成２１年度につきましては事業費５９万1千６４円、市の補助金としましては２８万8千円、平成２２年度につきましては事業費７４万5千４９４円、市の補助金が３６万5千円、平成２３年度予定となっておりますが決算が載っております、事業費が９０万1千２５４円、市の補助が４４万5千円という内容です。

事業の目的はここに書かれているとおり、森林という自然資源を活用した新しい観光スポットの開拓ということと、市民参加と住民主導の観光によるまちづくりということを目的としております。

事業の概要としましては大きく４点あげております。一つ目が林道を活用したウォーキング事業の開催、二つ目が森林への理解を深めるための普及啓発事業、三つ目に浜益区特産品のＰＲ普及活動、四つ目に観光施設、具体的には浜益温泉の利用やふるさと祭りなどのイベントへの参加、ＰＲ活動という内容です。

事業の対象者につきましては、ウォーキングに関心ある個人、グループという事で募集しております。

事業の実績につきましては平成２１年度が参加者１４５名、協賛数が２０社、平成２２年度におきましては参加者１２３名、協賛数が２６社、平成２３年度につきましては１５９名、協賛数が３０社、今年に限って申しますと３０社のうち市内の企業が２０社、市外の業者が１０社という内容です。

事業の成果としましては、雄大な森林の中で過ごすことによって、新たな観光スポットで観光集客が出来まして地域住民と都市住民との交流が図られました。

先ほど申し上げたとおり３０社からも企業協賛をいただいて、地域に根差した事業になりつつあり一定の成果が図られたと事務局としては考えており、一部リニューアルをしながら新年度に継続する方向で進めていきたいと考えております

［竹内主査］

果樹振興施設整備事業について説明いたします。

この事業は平成２１年から平成２３年まで、事業費については平成２１年度、７３４万5千２７３円、平成２２年度、４０９万5千２８７円、平成２３年度は予定と書いておりますけれど、先日実績報告が上がってきましたので、確定の金額として９２０万2千２００円という事です。財源内訳としまして、平成２１年度、この年は５０％補助という事で市補助が３６７万2千６３６円、その他財源としまして３６７万2千６３７円、平成２２年度、平成２３年度につきましては4分の3以内の補助という事で、４０９万5千２８７円に対しまして、市の補助３０７万1千円、その他の財源としまして１０２万4千２８７円、平成２３年度は９２０万2千２００円に対しまして、市の補助が６９０万1千円、その他の財源としまして、２３０万1千２００円となっております。

事業の目的としまして、果樹園におうとう雨よけハウスを整備することにより、おうとうの安定生産並びに観光果樹振興を図ることを目的としました。

事業の概要としましては、降雨によるおうとうの裂果を防ぎ、高品質なおうとうの安定生産や、雨天時のサクランボ狩りを可能にするため、おうとう雨よけハウス整備をしました。

事業の方法としまして、浜益果樹組合が行うおうとう雨よけハウス整備費の一部を補助いたしました。

事業の実施をしまして、平成２１年5棟２，４５５㎡、平成２２年5棟4，６６９㎡、平成２３年本年度は4棟4，７３５㎡の整備をしております。3年間の補助により延べ１１，８５９㎡の整備を実施しました。旧浜益村時代に整備された分もあわせ、全体の作付面積６４，６２０㎡に対しまして、約５４．７％に当たる３５，３３９㎡が整備されました。

事業の成果としまして、降雨によるおうとうの裂果を防ぎ、高品質なおうとうの安定生産により経営の安定が図られた。また、雨天時のサクランボ狩りが可能となり、新たなバスツアーを企画するなど観光振興に対する取り組みも行った。なお、事業を実施する果樹園への観光客入込数は、平成２０年度１３，１００人、平成２１年度１３，３００人、平成２２年度１４，１００人、平成２３年度につきましては１０，４００人となっております。今後降雨に左右されることなく、高品質なサクランボ狩りが楽しめる観光果樹園の存在が口コミ等で広がるにつれて、入園者数が増加するものと思われ

ます。
　この事業について一定の成果が得られたと思われます。観光資源としての位置付けや、利用者からのアンケート等を踏まえますとかなり好評でありました。
【神田会長】
　只今、事務局より地域自治区振興事業の成果について事業毎に説明がありましたが、最初に浜益区民コミュニティ普及推進事業について、何かご意見、ご質問はありませんでしょうか。
【芦澤委員】
　区民カレンダーは特に高齢者に喜ばれていますし、カレンダーを見るといろいろなことが分かりますから、成果としてはほとんどの区民から評価されていると思いますし、喜ばれている事業だなと思います。ですから引き続きやっていくべき事業と思います。
【神田会長】
　浜益区民コミュニティ普及推進事業については、区内ほとんどの家庭で活用されており、各家庭において必需品となっていることから、浜益区の特色ある事業として再度継続する妥当性が認められるという事で、よろしいでしょうか。
【出席委員全員】
　はい。
【神田会長】
　浜益区コミュニティ普及推進事業については、今後3年間継続することで平成24年度予算要求を行っていきたいと思います。
　次に、浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク事業について、何かご意見、ご質問はありませんでしょうか。
【芦澤委員】
　初めての試みで3年間行った中では、初期の目的は達成したと思うのですよね。ただ、参加者の7、8割が区外、市外ですので、交流人口の拡大、浜益区のＰＲに大きな効果が見込まれますので、引き続き行うべき事業と思います。
【神田会長】
　浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク事業の成果としては、浜益の豊かな自然を活用し、交流人口の拡大により、浜益の特産品ＰＲに大きな効果をあげていることから、再度継続する妥当性が認められるとしたいと思いますがいかがでしょうか。
【出席委員全員】
　はい。
【神田会長】
　浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク事業については、今後3年間継続することで平成24年度予算要求を行っていきたいと思います。
　次に、果樹振興施設整備事業について、何かご意見、ご質問はありませんでしょうか。
【芦澤委員】
　事業の成果の中で、平成23年度の観光客入込客数が４，０００人ぐらい落ち込んでいる、この大きな要因というのは何なのでしょうか。
【竹内主査】
　生産者に直接入込数、収穫数量の確認をしたところ、今年は7月上旬から異常気象の集中豪雨によって入園者数が遠慮がちな部分があった事と、サクランボ最盛期の土日がほとんど雨だったという部分で、個々で5割から7割ハウス整備を行っていますが残りは未整備な部分ですので、そのような要因で入込客数が落ち込んだと考えております。逆に考えると整備を行わなければ、もっと急激な落ち込みだったのではないかと思います。
【佐々木課長】
　集中豪雨によって国道231号線の通行止めがありまして、どうしてもテレビで国道231号が通行止めとなると浜益に行けないのでは、と皆さん思うのですよね。7月14日辺りに大雨がきまして、その後通行止め、解除を繰り返しているうちに浜益を敬遠して、違う産地に向かってしまうという事があって、それがかなり響いたと果樹園経営者も言っていました。

【白井委員】
今年は異常気象の影響でサクランボの時期がずれてしまい、時期後半には物が無い状況になってしまい、それが入込客数減少につながったと思います。
【渡邉支所長】
後、東日本大震災での自粛の影響もあろうかと思われます。海水浴客の落ち込みにも影響しているところがありますので。
【竹内主査】
大方の成果が得られて3年一区切りという事もありまして、事業としては終了したいと考えております。
【芦澤委員】
事業の実績の中で作付面積に対して54．7％まで整備されたという事ですが、組合としてはこれで十分だというような考え方なのですか。
【竹内主査】
その辺りのことを事務局に伺ったのですが、組合員の中でもまだ継続して欲しい人もいれば、もう十分と考えている人もいると、十分と考えている方が多いような感じだというのが事務局の見解でした。
【佐々木課長】
自然の下でサクランボ狩りをやりたいとの意見もあることですし、あと4分の3補助といっても残りを自己負担で厳しい部分もありますことから、事業は3年一区切りとして終了して後は自立できるのかなと思っております。
【三浦委員】
果樹の作付面積が減るということはないのですか。
【竹内主査】
果樹組合の組合員は高齢者だからという理由からそういうことは考えられなくはないのですが、産業振興の農政担当としては後継者等が引き継いでもらえるだろうという気持ちです。
【佐々木課長】
今、来年度に向けて石狩市全体の農業振興計画の策定を行っているのですが、その中でも浜益区の果樹園それと黒毛和牛ですね、これをどういうふうに位置付けていくかというのが、本庁舎の農業振興計画の産業部会でも、石狩市の中でサクランボがあって和牛がいるというのは浜益だけですから、これを農業振興計画にどうやって位置付けていくかと毎週議論しているところですので、その辺りの兼ね合いもございますけれども、特色ある農家という事で残していきたいと、私どもは思っております。
【神田会長】
果樹振興施設整備事業については、地域自治区振興事業として3年間実施したことにより、高品質のおうとうの安定生産による経営の安定が図られ、雨天でのサクランボ狩りが可能となったことで、これからの果樹園の入込み、また浜益全体の観光客入込の増加が期待できるものであります。
雨よけハウスの効果は十分に認められますが、今後は施設整備のみならず浜益のサクランボをブランド化していくよう、取り組みが望まれると思います。このため本事業については平成23年度をもって終了したいと思いますがいかがでしょうか。
【出席委員全員】
はい。
【神田会長】
それでは果樹振興施設整備事業については、平成23年度で終了することといたします。
以上で地域自治区振興事業の成果の総括を終了いたします。
続きまして、協議2の平成24年度地域自治区振興事業について、事務局より事業毎に説明願います。
【小島主査】
お手元に資料2、平成24年度地域自治区振興事業予算要求書の集計と事業4本の事業調書、3事業の参考資料を配布しております。

浜益区民コミュニティ普及推進事業についてご説明させて頂きます。区民カレンダーの製作という事で、これまでと変わらず１，１００部を製作しまして、区内の各種行事、健康診断、小中学校行事、その他の事業に浜益の昔の写真を入れましたカレンダーの製作という事で、事業的にはこれまでの事業内容と同じでございます。要求額につきましても同じく２４万円というふうになっております。よろしくお願いいたします。

【袴田主査】

浜益「いっぺ・かだれや」林道ウォークin千本ナラ事業についてご説明いたします。

事業予算調書は字が小さくて見づらいので、資料のほうを見ていただきたいのですが、地域を活性化する目的に、最近ブームの「健康志向者」であるウォーキングをしている方をターゲットに、浜益区の「観光資源」と「特産品」のＰＲしながら「地域間交流」をしたいというイメージです。

そのスタッフの一員として「地域のボランティア団体」にご協力いただきながら、さらに、北海道などの「後援」、石狩市・教員委員会の「共催」、千本ナラ保全協議会やバスツアー事業者の「事業協力」、「協賛（スポンサー）」として市内外の事業者にご支援いただき、主催者である「林道ウォーク実行委員会」が取りまとめて進めていく、という展開イメージを描いています。

それでは、事業内容について、ご説明いたします。

基本的には、過去3ケ年の事業成果を踏まえながら、進めて参ります。事業を継続する理由として、参加者のニーズ、アンケート調査やバスツアーの実績を踏まえ、当事業への参加者増など今後も期待ができること、「健康(ウォーク)」、「観光資源(千本ナラ)」、「特産品ＰＲ」をキーワードに個性ある地域づくり事業として、地域自治区振興事業に合致していることなどの理由をもちまして継続するものであります。

次に、事業名称について、（仮称）浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォークｉｎ千本ナラとして、開催いたします。リピーターが多くなっているため、新設コースと設定しました。また観光資源のひとつである「千本ナラ」始め、眺めの良い「毘砂別展望台」、「暑寒別連峰」、「黄金山」を広くＰＲすることができると考え「千本ナラコース」を設定しました。

開催日時につきましては、ふるさと祭りと同時開催が良いというアンケート結果がありますので、ふるさと祭りと同日開催とします。同時開催する効果として、「第一次産業との連携」、「食と観光」を広くＰＲすることができ、観光入込数の増についても期待できると考えます。

設定コースにつきましては、毘砂別会館スタート→毘砂別展望台→千本なら→展望台→毘者別会館までの往復約11kmを予定しています。

具体的な取組みとしましては、「林道ウォーキング」、「ノルディックウォーク」、浜益特産品を活用した「お楽しみ抽選会」、前回からとりいれた「ご当地クイズ」を継続しながら、新たに「コース内にビューポイント看板の設置」、千本ナラ祈願用「しゃもじ」を提供するなど予定しています。

募集人員につきましては、過去の実績を踏まえ定員200人規模を予定しています。事業予算としましては、事業予算全体１０１万2千円とし、「地域自治区振興補助金」2分の1補助の５０万円を予定しています。

事業協力としましては、「千本ナラ」観覧（散策）にあたり「浜益千本ナラ巨樹・巨木保全協議会（木村康美会長）」へ協力依頼をし、さらにバスツアーについての取組も継続していきます。

実行委員会の名称変更につきまして、現在の実行委員会の名称を浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク＆マラソン実行委員会を改め、浜益「いっぺ、かだれや」林道ウォーク実行委員会と変更する方向で考えています。理由としまして、第4回から休止しているマラソンは、今後においても再開の予定がないためであります。

なお、１１月8日に第3回目の実行委員会において、「継続する方向」で確認していますので、申し添えます。

以上、説明といたします。よろしくお願いします。

【竹内主査】

続きまして、水稲育苗兼施設野菜等ハウス整備事業ですけれど、この事業は平成22年度からの継続で、今回平成24年度が最終年ということで考えています。

目的、概要、事業の方法、実施の背景に至りましては前年度と同じような内容で、事業実績という事で平成22年度予算額が事業費ベースで923万3千円に対しまして、市の補助が692万4千円、自己負担額230万9千円という事で、水稲育苗ハウス１６棟、延べ面積5，５９０㎡を整備しています。実績としまして事業費923万3千221円、市の補助が６９２万4千円、自己負担額が２３

0万9千221円となっております。今年度、平成23年度事業費は予算ベースで948万8千円、実績としまして902万4千139円、市の補助としまして予算ベース711万6千円、実績としまして676万8千円、自己負担額といたしまして予算ベース237万2千円のところ、実績では235万6千139円となっております。建設されたハウスの棟数は平成23年度11棟、延べ面積としまして3，624．6㎡、本年度につきましては花卉3棟だけが後作として付けております。

続きまして平成24年度の事業規模としまして、幅6．4m長さが57mのハウス1棟、133万659円、続きまして幅6．3m、長さ50mのハウスを2棟考えております、2棟分で188万3千332円、続きまして幅7．5m、長さ90mのハウスを2棟、金額的には450万5千274円、続きまして幅が7m、長さが50mのハウスが1棟、98万173円、幅7．2m長さ28mのハウスを2棟、138万円、幅7．5m長さ100mのハウスが1棟204万9千651円、幅5．2m長さ100mのハウスを2棟235万6千296円、幅6．0m長さ40mのハウスを3棟262万7千484円、合計の面積としまして、平成24年度は5，648㎡、棟数で行きますと14棟、総体の事業費としまして1，796万8千507円を予定しています。その財源内訳といたしまして市の補助としまして4分の3以内相当に値します1千347万6千円、自己負担としまして449万2千507円を予定しています。

〔小島主査〕

浜益区地域交流施設運営事業、旧適沢コミセンを活用したカフェ・ガルの営業でございます。こちらについても平成22年度から継続事業で、今年度で2年目を迎えて、平成24年度で3年目となります。

昨年から実施しまして、本年度も今年の9月で事業が終了したのですけれども、1年目に比べて約20％の入込減となっております。それに伴いまして売り上げも若干下がっております。これにつきましては、先ほどの果樹園の入込客数にもあるのですけれども、3月におきました東日本大震災の影響、それから週末になれば天候が悪かったという事、それと度重なる国道の通行止め等々ございまして、1年目に比べて売上、入込客数ともに残念な結果というふうになっております。しかしながら事業を実施しているふるさと倶楽部ガルのメンバーにつきましては、来年度も頑張ってやっていきたいということでありますので、市としても、こちらの事業についての支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

新年度の全体事業費につきましては、188万7千円に対しまして補助対象経費が55万8千円、補助額につきましては、その2分の1の27万8千円を要求したいと考えております。補助金の額につきましては1年目、平成22年度が新規事業の補助率が4分の3という事もありまして、60万3千円の実績でありました。今年度につきましては補助率が2分の1なのですけれども、実績としまして40万3千円を本年度は支出しております。新年度は27万8千円という事でさらに下がるのですけれども、これにつきましては必ずしも補助金ありきではなく、4年目以降補助金が無くなった場合には、すべて自分たちで収入を得なければならないという事で、仮に今年と同額で補助金を支出した場合に、4年目にその補助金がゼロになった場合、経営的にも苦しいという事で段階的に補助金を減らしていきつつ、将来的には自分たちで運営できるようにという考えから、来年度につきましては補助金額を徐々に減らしていくという事で27万8千円と考えております。営業日数につきましては基本的に昨年と変わらず、6月から9月にかけての金、土、日及び祝日の営業を考えております。

支持を受けております、主に高齢者を対象とした配食サービス等につきましても、継続して実施する予定と考えております。

〔神田会長〕

只今、平成24年度地域振興事業について事業毎の説明がありましたが、地域自治区振興事業は基金条例等に照らし合わせ、妥当かどうか地域協議会の意見を聞いたうえで、支所から本庁に提案できる仕組みとなっておりますので、十分な協議をしていただきたいと思います。それではご意見ご質問がありましたら、一括してお受けいたします。ありませんでしょうか。

〔三浦委員〕

水稲育苗兼施設野菜等ハウス整備事業ですが、水稲育苗の際に農薬の関係で後作が出来ないので、事業名称から水稲の文字を除くという事になっていませんでしたか。

〔竹内主査〕

農業改良普及センターの人を講師に呼んで会議を開いて調べてもらった結果、水稲育苗後に野菜の作付を出来ることが決定されましたので、平成24年度からは水稲育苗後に野菜等を付けてもらう事になりました。
〔佐々木課長〕
今年度の当初はじめに、農業改良普及センターから各農協の方に、農薬の関係で後作出来ませんので組合員に周知してください、という文章が回ったのですよ。事業を申請されている方も準備はしていたのですが、それで事業者も各農家も野菜等を作ったらいけないという事で困っていたのですが、研修会等数回会議を開いて、結果、時期、温度調整等とかをすれば後作は出来るという事になりまして、来年度からは後作をつけていただいて、収益を得ていただきたいと思っております。
〔芦澤委員〕
事業実績の中で平成23年度、花卉3棟しか併用しなかったのですか。
〔竹内主査〕
今回問題となっていた農薬はベンレートという薬なのですが、水稲育苗と野菜をセットで作れないのですが、花卉についてはそのベンレートを使わないので問題が無いという事で、平成23年度計画の中で花卉を作るといった箇所はそのまま作ったのです。
〔芦澤委員〕
実際にやってみて、花卉はどうなのですか。
〔竹内主査〕
収入的にはかなりいいみたいです。
〔芦澤委員〕
何種類ぐらいあるのですか。
〔竹内主査〕
農協で抑えている数字の中では2種類ですね。ユリ科の物とスターチスですね。
〔芦澤委員〕
花の値段はいいのでしょ。
〔竹内主査〕
いまは、まあいい方ですね。
〔芦澤委員〕
花なら花に統一して、そういうことをやれない要因というのは何なのですか。
〔竹内主査〕
花は手間がかなり掛かりますし、技術的なものも勉強しなければならないですから、本当に花が好きで花で生計を成り立てようという気持ちがあれば出来るかもしれないのですが、水育棟もいっぱい面積を持っていて、花もとなるとかなり難しいですね。
〔芦澤委員〕
でも収益はあるのでしょう。
〔佐々木課長〕
収益はかなりあるのですけれども、技術的に1年2年で出来るのかなと、この花を作っている方は昔から作っている方なので、技術的には相当成熟しているだと思います。
〔二本柳委員〕
私が知っている当別の農家は、動物を飼うより難しいって言っていました。
〔竹内主査〕
事業主体が農協ですので、農協の方にも収益が上がるのであればそういうことを指導するなり、JA北いしかりの本部が当別ですので、当別は先ほど二本柳委員がおっしゃっていたように花も有名ですので、そういうのも含めて農協には何回か言っているのですけれど。
〔芦澤委員〕
ぜひそういう方向でやって欲しいと思います。
〔芦澤委員〕
この平成24年度事業で漁業振興関係が何もないのですが、実際ないのですか？
〔渡邉支所長〕

産業振興奨励補助の方で種苗放流等の事業は行っておりますけれど、漁協等団体の方に新たな事業があれば、というお話はしておりますけれども引き続き、そういったお話をさせていただきたいと思いますので、またこの協議会の中でも後継者の方も委員として出てこられていますので、普段の会議の中でもそういうお話をしていただければ、と期待をしているところです。

【木浪委員】

昔、漁業組合の中に加工するような施設があったのですか？

【神田会長】

たしか、タコをゆでる施設があったと思うのですが、補助の該当外で組合単費だったような。

【木浪委員】

まとまった施設がひとつあれば、浜益独自の特色のある特産品ができるのかなと思うのですけれど、個人的にやっている人はいっぱいいるのですけれども。

【渡邉支所長】

その辺を各団体の青年部なり婦人部で議論いただいて、この地域協議会の場に上げていただけると一番よろしいのですが。

【神田会長】

漁業関係の施設整備は、たしか国の補助とか過疎債が付きやすいもので、村時代にも荷捌き所等整備されてきていますよね。地域振興事業の前に国補助等の事業に乗っかって地域協議会の場に上がってこないだけなのではないでしょうか。

【渡邉支所長】

特産品の開発と言いますか、それを売り物にしてお客さんを呼び込み地域を活性化させる、そういう仕組みも考えていただければと思うのですけれども。

【木浪委員】

個人的には皆さん一生懸命考えて、個人的には流通している部分もあるのですけれど、みんながまとまればもっと強力なものが出来ると思うのです。

【神田会長】

実際、国補助等に乗れなかった事業で動く人達が、この地域協議会に提案してもらわないと上手くいかないと思いますね。

【二本柳委員】

やはり、現場から出してもらわなければだめですよね、こちらから無理に出せということは、こちらから押し付けることになりますし。

【神田会長】

事務局から説明がありました4事業について、平成24年度予算に要求することに異議ありませんか？

【出席委員全員】

異議なし。

【神田会長】

異議なしという事で、浜益区地域自治区振興事業として予算要求することといたします。

4事業について浜益区地域自治区振興事業として確認されましたので、支所から本庁に対して予算要求をお願いいたします。

協議3その他という事で、事務局からなにかございますか。

【佐々木課長】

地域自治区振興事業調書という資料をつけておりますが、今までの補助金事業がこれだけありましたという資料です。継続されている委員さんはご理解していると思いますが、新規の委員さんもいらっしゃいますので提出させて頂きました。

平成18年度から新事業として取り組んできておりまして、平成23年度に5事業行いました。補助金の金額が平成23年度末で3千214万2千255円、残6千785万7千745円です。いま平成24年度事業を予算要求することとなりましたけれども、残り4年間の中で特色ある地域づくりという事でいまあたっておりますので、今後協議会において新しい事業なども、検討していきたいと思っております。

5　次回開催日程について

【神田会長】

次回開催日程について事務局から提案願います。

【小島主査】

議会の関係もございまして、12月13日火曜日、午後6時と考えておりますがいかがでしょうか。

【神田会長】

ただいまの事務局提案でよろしいでしょうか。

【出席委員全員】

はい。

【神田会長】

それでは次回開催は12月13日火曜日、午後6時からといたします。

6　そ　の　他

【神田会長】

その他、ございませんか。

【岸本副会長】

今日の議題とはあまり繋がりが無いのですが、浜益海浜公園イベント広場について排水が詰まっており、イベント前の降雨によりポンプで排水している状況です。イベント広場の整備にもかかわってくることでしょうから、今後の地域協議会での話題にしていただきたいのです。

ふるさと祭り実行委員会開催前ですので、これからの話になるとは思います。

7　閉　　会

【神田会長】

それでは本日予定しておりました案件についてすべて終了いたしました。以上をもちまして第7回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成23年12月13日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会
会長　神田一昭